

人口減少対策方針(仮称)の骨子

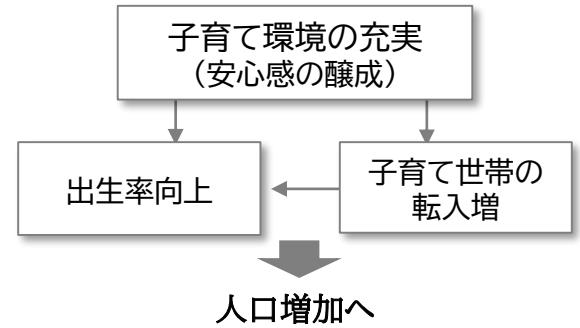
10年先の展望に基づき、4年間(令和5年度から令和8年度)の取組方向を位置づける。

1 人口減少の現状

人口減少の現状、社会経済情勢の変化、本県の強み・弱み

- **人口減少の現状**
 - ・人口の状況
 - ・自然減の状況
 - ・社会減の状況 など
- **社会経済情勢の変化**
 - ・デジタル技術の進展
 - ・ダイバーシティの進展
 - ・働き方改革の必要性の高まり
 - ・交通ネットワークの整備 など
- **本県の強み**
 - ・名古屋・大阪の通勤圏内にある市町はベッドタウンとして転入者が増える可能性
 - ・豊かな観光資源⇒交流人口
 - ・県北中部に産業集積、南部に雄大な自然等 など
- **本県の弱み**
 - ・南部は働く場が少ない
 - ・北中部は大都市に比べ本社機能や産業の多様性に乏しい
 - ・県内就職率5割、Uターン就職3割と低い
 - ・交通利便性、娯楽施設の面で劣る など

先進的な取組事例
(流山市、明石市、奈義町から得られる知見)



2 人口減少対策の基本的事項

基本的な考え方

- エビデンスに基づく対策の実施
- 結婚や子育ての支援
- 働く場や住まいの確保
- 癒し・賑わい
- デジタル技術の活用
- 多様性の尊重
- 質的な面にも着目した対策
- 人口減少社会への適応
- 国・市町・民間企業等との連携

10年先に向けての展望

中期展望(10年後)
人口減少幅の緩和の兆しがみえる時期
(めざす姿)

- ・ 合計特殊出生率の改善傾向がみられる
- ・ 転出超過が改善されている
- ・ 地域の担い手が増え、地域の持続的な取組がはじまっている

そのために

4年間の取組(4年後)
エビデンスに基づく効果的な対策に取り組むとともに、人口減少対策の仕組み・制度を構築する時期
(めざす姿)

- ・ 県内へ定着しようとする気運が高まり、若者の働く場が増えている
- ・ 県外へ進学した若者のUターンが増えている
- ・ 全国どこでも同じ条件で子育てできる仕組みや制度が整いつつある

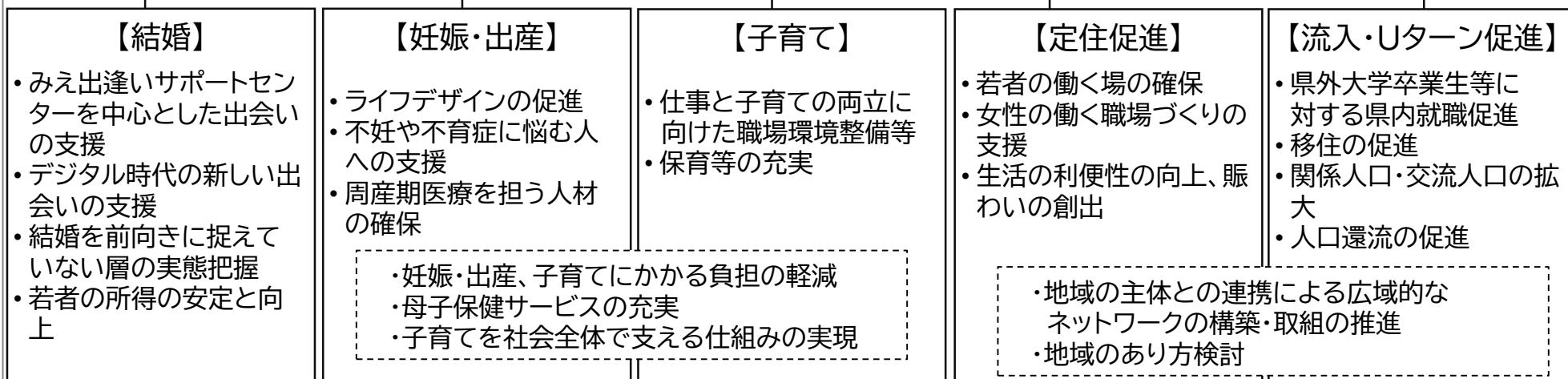
モニタリング指標

- 【人口】
 - 基本指標→三重県人口
 - 関係指標→人口増減率、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口
- 【自然増減】
 - 基本指標→合計特殊出生率
 - 関係指標→出生数、婚姻数、15歳から49歳までの女性人口
- 【社会増減】
 - 基本指標→転出超過数
 - 関係指標→転出者数、転入者数

3 人口減少対策の具体的な取組方向

自然減対策

社会減対策



※ 対策として実施する主な取組については、KPIを設定する

人口減少対策に関連する取組

防災・減災、医療・介護、教育、公共交通、産業振興

4 進行管理

- モニタリング指標、KPI及び方針に位置づけた取組に関しては、効果検証を行い、改善につなげる